



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Author(s)	逸見, 勝亮
Citation	北海道大学大学文書館年報, 6, [227]-[227]
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/45224">https://hdl.handle.net/2115/45224</a>
Type	other
File Information	ARHUA6_012.pdf



〔編集後記〕

◇常脇恒一郎「北大初代農場長南鷹次郎による作物遺伝資源収集とそのコムギコレクションの近代コムギ遺伝学に対する寄与」を載せた。常脇先生は、コムギの遺伝・進化・育種学の泰斗、京都大学名誉教授・日本学士院会員である。大学教育史研究の難問は、最重要のミッションであり、かつ日常の営為である教育・研究、就中研究史（学術史）を、大学史に位置づけることである。この論文は、北大における学術史の新天地を切り開いた。

◇森本晴生氏（新渡戸文化学園学園長）と深山厚子氏（聖心会シスター、台湾在住）の来館を記念して、資料見学会「森本厚吉点描——札幌農学校受験から北海道帝国大学離任まで」（2010年4月9日、7月15日）を開催した。お二人は森本厚吉の孫にあたる。また、「平塚直治・直秀の『銹菌研究』来し方——宮部金吾との師弟結びつきを中心に」（11月12～26日）を開催し、高岡治子氏（直治四女）、西信博・西安信・宮田篤子氏（直治孫）らが、ご家族ともども見学にみえた。

◇〈記録〉にあるとおり、公文書等大学所蔵資料12件の移管とともに、20件の個人資料を受贈した。上記見学会も個人資料受贈のコロラリーとして開催したものである。個人資料寄贈者との関係が持続していることは、大学文書館を特徴付けている。

◇大学文書館利用状況（2010年1月～12月）は、参考調査が274件、閲覧・複写利用者が161名（1,124件）であった。昨年同時期にはそれぞれ218件と132名であった。ちなみに226開館日、89閲覧日であった。利用状況は以前にも増して濃密である。

◇北海道大学史にとって、植民地とのかかわりはいずれの時期においても深甚なテーマである。『北大百年史』では、植民地に職を求めた卒業生の動静、田中愼一「植民学の成立」、長岡新吉「北大における満蒙研究」、『北大百二十五年史』では、井上勝生「札幌農学校と植民学——佐藤昌介を中心として」、竹野学「植民地開拓と『北海道の経験』——植民学における『北大学派』」を載せている。「台湾に渡った北大農学部卒業生たち」と北大農学部卒業生の「渡台者一覧」は、少なくとも『北大百年史』の記述を前進させる。

◇井上勝生「戦時下、時代に棹さした北大生宮澤弘幸、再論——逸見勝亮氏『宮澤弘幸・レーン夫妻軍機保護法違反冤罪事件再考』評」は、第7回北海道大学史研究会（2010年7月29日）報告「宮澤弘幸・レーン夫妻冤罪事件再考——北海道大学所蔵史料を中心に」に対するコメントである。これは、第7回北海道大学史研究会における討論の続きにして発展形である。知的興味と緊張を得られるのは幸甚である。（逸見）

---

北海道大学大学文書館年報 第6号

---

2011年3月31日発行

編集・発行 北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話 011-706-2395（FAX 兼）

印刷 岩橋印刷株式会社